

第2章 地域の移り変わり



本章は、平成27年以降の10年の地域の移り変わりについて、市役所や機関などを通じて、また、地域住民からの情報提供や聞き取り調査などで収集し、新たに生まれたもの、活動の変化、活動を閉じたものを掲載している。様々な視点から捉えることを試みたが、記念誌部会員の情報収集には限りがあり、ここに記載されていない活動もあるかと思われる。

第1節は、地域の人々の交流・つながりの移りわりとして、地域の組織や団体の活動について記している。ただし、団体の紹介だけにとどまり、地域の一人ひとりの移りわりについては記載出来ていない。

第2節は、子育て環境の整備のために、地域で子どもを育むコミュニティ・スクール、子育てに必要な保育園や子育て支援センターの整備が進んでいることを記している。

第3節は、ふるさとの文化・自然について調べたが、貞元地域の豊かな自然を活用した活動が多いことが改めて確認出来る。

第4節は、暮らしの様子の移りわりとして、身近な交通インフラや商業活動の変化に加え、この地域に移り住んだ人の声や増えている外国人の様子を記した。

この地域の学校（周西小学校・貞元小学校・周西南中学校）には、学校の子どもたちと公民館の関わり方などについて書いていただき、コラムとして掲載している。

第1節 地域の人々の交流・つながり

1. 自治会

自治会は、同じ地域に住む人々が交流を図るとともに、地域の安心安全のため、また地域の様々な問題を解決するために協力し合って自分たちの地域を住み良いものにすることを目的に、地域住民が自主的に結成し、運営している任意の団体である。

この地域には現在、中野、久保、台、高坂、陽光台、中富北、貞元、八幡、新御堂、
杉谷、^{こおり}郡、郡の杜、小香、上湯江、上湯江市場、下湯江、中富の 17 の自治会がある。

この 10 年の中では、日鉄住金物流君津(株)上湯江社宅自治会が平成 27 年に社宅の取り壊しとともに終了した。

また、自治会加入率は、当地区より広範囲の情報ではあるが、世帯数が増加しているのにも関わらず減少しているのが分かる。

自治会加入率	平成 30 年 8 月 31 日現在			令和 5 年 10 月 31 日現在		
	世帯数	自治会加入世帯数	加入率 (%)	世帯数	自治会加入世帯数	加入率 (%)
君津南地区 ^{※1}	5,746	3,022	52.59	5,820	2,585	44.42
君津中地区 ^{※2}	8,910	5,334	59.87	9,313	5,146	55.26

(第3次・第4次君津市地域福祉活動計画より抜粋)

※1 君津南地区：周西南中学校区

※2 君津中地区：君津中学校区

2. 消防団

消防団の歴史は古く、江戸時代の店火消、町火消、明治時代の消防組（警察組織）、戦時中の警防団と変遷し、戦後に現在の消防団となった。君津町では、昭和 45 年 9 月 28 日に消防団が設置され、令和 6 年 4 月現在、消防団員 731 人（30 分団）となっている。

君津市消防団は、消火活動をはじめ、救助活動、風水害への対応、捜索活動、演習訓練、地域のお祭りの警備など、活動は多岐にわたり、住民の生命・身体・財産を災害から守るという強い使命感の下、自身の職業と両立させながら日夜献身的に活動している。

この地域に甚大な被害をもたらした令和元年房総半島台風では、発災直後から被害状況の把握や避難誘導・安否確認のほか、停電の影響により使用不能となった防災行政無線の代替的役割を担う災害関連情報の広報活動など、地域に密着したきめ細やかな対応がとられた。

当地域に関わる分団は以下の通り（令和 6 年 4 月現在）

分団	受持区域	定数
第 5 分団	貞元、八幡、杉谷、新御堂、郡、郡 1 ~ 3 丁目	23 人
第 6 分団	小香、上湯江、下湯江、中富（伽欄及び沢向を除く）、下湯江飛地、中野飛地	23 人
第 7 分団	中野、中野 1 ~ 6 丁目、久保、久保 1 ~ 5 丁目、北久保 1 ~ 2 丁目、南久保 1 ~ 3 丁目、台 1 ~ 2 丁目、陽光台 1 ~ 3 丁目	23 人
第 9 分団	大和田、大和田 1 ~ 5 丁目、人見（神門を除く）、人見 1 ~ 5 丁目、中富（伽欄及び沢向）	21 人

3. 民生委員児童委員協議会（君津南地区・君津中地区）

「民生委員」は、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員で、社会福祉の増進のために、地域住民の立場から生活や福祉全般に関する相談・援助活動を行っている。また、全ての民生委員は「児童委員」も兼ねており、子育てに関する様々な相談や支援を行っている。

市内8地区に民生委員児童委員協議会があり、君津南地区（周西南中学校区）は19名、君津中地区（君津中学校区）は35名が活動している。（児童福祉に関する機関と連携を図り、児童委員の活動をサポートする「主任児童委員」を含む）

民生委員・児童委員は、概ね120～280世帯を担当し、住民の生活上の様々な相談・支援を行うとともに、高齢者などのサロン活動や子どもたちの見守り、地域の防災力向上などの地域活動にも取り組んでいる。

最近は、高齢者からはスマートフォン（LINEなど）の使い方、シングルマザーや地域住民、保育園などからは子どもに関する相談が増えてきている。また、母親が外国人で日本語を話せず、コミュニケーションがうまく取れない事例もあり、支援の内容が多様化してきている。

4. 社会福祉協議会（君津南地区・君津中地区）

君津市社会福祉協議会は、地域の実情にあった福祉活動を推進するため、市内8地区に地区社会福祉協議会を設置し活動の継続・発展を支援している。この地域は君津南地区（周西南中学校区）、君津中地区（君津中学校区）の一部（貞元小学校区）が対象地区となっている。各地区社会福祉協議会では、地区ごとの福祉ニーズに沿って、敬老会・独り暮らし高齢者の見守り・高齢者サロン・防犯パトロール・あいさつ運動・広報紙の発行など様々な事業を展開している。コロナ禍の影響もあり、各活動が一時期中止となつたが、令和6年4月現在は、ほぼコロナ禍以前の状態まで活動が復活している。

5. 生活支援コーディネーター（地域支えあい推進員）

君津市では、高齢者が住みなれた場所で安心して暮らしていく地域づくりを進めるため、平成31年度より8地区（令和6年4月現在は10地区）に生活支援コーディネーター（第2層）を1名ずつ配置している。生活支援コーディネーターは、君津市全体を担当する第1層（平成29年度より君津市社会福祉協議会職員3名に委託）とともに、地域住民や地域組織、ボランティアなどと連携しながら、住民同士の支え合い活動の体制づくりを一緒に考え活動している。

君津南地区では、自治会別の社会資源を整理し、君津中地区では、高齢者支援情報誌「カラーハンド帳」を作成し情報提供を行っている。また、各地域で開催されるふれあいサロンや他団体の会議などに参加し情報交換も行っている。

6. シニアクラブ（老人クラブ）

この地域には令和6年度現在、7つのシニアクラブがあり、高齢者が楽しく生きがいを持って、安心して暮らしていくために、仲間と支え合いながら「健康」「友愛」「奉仕」の活動に取り組んでいる。高齢社会を豊かで活力あるものにしていくために、クラブごとに健康体操、防犯、レクリエーション活動など多彩な行事を行っている。以前は老人会の名称で活動をしていたが、平成29年6月からシニアクラブに名称変更している。平成30年には、10団体（335名）であったが、コロナ禍の影響もあり、令和5年時点では7団体（284名）に減少している。

7. 青少年健全育成連絡協議会（周西南中学校区・君津中学校区）

両校区の活動目的は、学校・家庭・地域の連携の下、心身ともに健やかな青少年の健全育成のため、温かい地域連帯感の創出などの条件整備を進めるとともに、地域の教育力を高めることである。構成員は、賛同する社会教育関係団体、企業、機関より選任された者、及び個人である。

周西南中学校区では子ども110番の家、あいさつ運動、情報交換会、学区内安全点検など、君津中学校区では、子ども110番の家、情報交換会、学区内安全点検、レッツトーク運動（中学生対象のあいさつ運動）などを行ってきてている。コロナ禍には、両校区とも各活動が中止となったり、総会・情報交換会が書面開催になったりしたが、令和6年度の活動内容はコロナ禍前と同等となっている。

8. 青少年相談冒

青少年相談員は、地域での青少年育成活動の積極的な推進を図るため、青少年と共に喜び、共に語り、青少年のよき相談相手となることを目的に千葉県知事と君津市長から委嘱され、地域の青少年健全育成活動の指導者として活躍している。

近年の扱い手不足のため、平成 28 年には委嘱時の年齢制限が 45 歳から 55 歳に引き上げられた。

令和4年には君津市市制施行50周年記念事業として「令和版君津ふるさとかるた」を制作し、継続してきた「かるた大会」で使用している。

令和6年度4月時点では君津市内101名の青少年相談員がおり、公民館区ごとの活動をしている。君津中央公民館区には11名在籍しており、例年、周西小学校、貞元小学校の児童を対象に、バスハイク、宿泊体験、かるた大会などを実施している。

【この地域に関するかるた】



「は」春うらら桜と笑顔 小糸川遊歩道
「さ」さあ踊ろう！ふれあい 祭りだいやさかさつさ
「ち」地域の安全守ります 市民の君津警察署
「ほ」北条氏陣跡残す三舟山
「け」元気な田んぼとなるようにレンゲソウを植えた
ていげん 貞元親王

9. 貞元コミュニティ活動推進委員会

貞元コミュニティセンターは、昭和 59 年に完成し、貞元地区自治会連絡協議会を中心に、各種団体の代表者からなる運営委員会を設置し運営に当たってきた。

設立当初から賀詞交歓会（1月）、盆踊り大会（8月）、親睦旅行（秋）などを実施してきた。賀詞交歓会と盆踊り大会には、毎年市長を初め、県議会議員、市議会議員、商工会議所会頭の皆様の参列をいただき、盛大に行われてきた。

平成18年4月、君津市の指定管理者制度の導入に伴い、運営委員会のメンバーでこれを申請し指定を受け、新たに「貞元コミュニティ



活動推進委員会」の名の下に、今まで運営に当たってきた。

これらの事業とは別に、昭和 60 年君津中央公民館貞元分館事業として「れんげの里のふれあい」も開催されていた。この事業も、平成 25 年に「貞元コミュニティセンター」の事業として組み込まれ継承して開催していたが、平成 28 年を最後に、幕を閉じた。

また、親睦旅行は参加者不足により平成 26 年に中止、盆踊り大会は令和 6 年に再開の計画を立てたが、連日発令された「熱中症特別警戒アラート」により実施を断念し、賀詞交歓会は令和 7 年に再開した。

10.遊びサポーターぐるんぱ

遊びサポーターぐるんぱは、0歳からの子どもとママを応援したいと、心と体をいっぱい使った遊び（ふれ合い遊び・大型紙芝居・パネルシアターなど）を提供する子育て支援団体である。「君津おやこ劇場」解散後、元会員の有志が平成 17 年に発足させ、継続的に親子の成長を見守りたいと開催する「ぐるんぱのへや」とともに、依頼のあるところにでかける「あそびの出前」を実施し、公民館事業にも協力してきた。平成 28 年 7 月に君津地方社会教育委員連絡協議会から表彰されている。

しかし、近年では働く親が多く、君津中央公民館で開催していた「ぐるんぱのへや」への申し込みも無く、申し込み不要の単発的な活動に変えてきた。それでも参加者が少数となったため、親子が集まるところで遊びを提供しようと、令和 6 年度は君津中央公民館の「こっこるーむ」で年に数回開催することになった。ここ数年はスタッフが減少しており、今後の活動を模索している。

ぐるんぱのへや プログラム

- | | |
|----|------------|
| 2月 | 森の温泉であったまろ |
| 3月 | ぐるへや卒業式 |
| 4月 | 手のひら音楽会 |
| 5月 | 外遊び①公園で遊ぼう |
| 6月 | 七夕あそび |
| 7月 | 魚つり |
| 8月 | 外遊び②水遊び |

11.子ども食堂あかね

子ども食堂あかねは、新型コロナウイルス感染症が 5 類へと変更になる前の令和 5 年 3 月、地域交流を目的として、君津中央公民館調理室を会場に活動を始めた。

コロナの感染者数は落ちていたが、“子どもや地域の人たちが安心して過ごすにはどうしたら良いか”公民館職員に相談した後、子どもたちだけでなく様々な世代の人がともに食事を楽しみながら交流出来る居場所を作っている。食材や駄菓子の提供や当日の手伝いなど、地域企業、団体、ご近所の人からの支援に支えられている。プロのマジシャンによるマジックショーは子どもから大人まで楽しんだ。

毎月第 1 金曜日に会食とフードパントリー（必要な人への食料の無償提供）を行っている。

12.君津市読書会連絡協議会

昭和 50 年当時は、君津市内に多くの読書会が活動し、ほかにも、PTA 活動として、親子読書会や文庫活動も盛んな時期でもあった。新日本製鐵（現日本製鉄）の進出による人口の増加に対応して、君津市連合婦人会の会長は学ぶことによって住民の融和を図ろうと「君津市婦人のつどい」を立ち上げた。その様々なテーマのひとつ「読書会の運営について」の分科会に多くの読書会が参加した。分科会活動の中、助言者の木更津図書館長の「お互いが発展していくために、連絡会の組織を作ったらどうか」との後押しに、昭和 57 年 7 月、君津市読書会連絡協議会が発足した。当初の、三島

(清和)・唐椎(周西)・メロン(貞元)・ふきのとう(大和田)・小糸(小糸)の5団体に、やまびこ(上総)、古典を勉強する会(君津)が加わった。

相互の連絡・交流以外にも、読書活動の発展もめざしたその活動は、図書館と共に「著者を囲む会」(昭和53年～平成21年、40回超)、君津中央公民館館報の「この本」紹介コーナーの担当(平成3年5月～平成15年12月、100回)、読んだ本の背景を確かめる「文学散歩」、図書館建設運動の担い手、県立図書館への「大人の読書グループ育成」の提案と多岐にわたる。

「これからも読書会を中心に据え、幅広く様々な分野と連携して、よりよい地域づくりの一端を担っていきたい」と活動を続けてきたが、会員の高齢化で中心となる人が減り、活動を縮小・閉じる読書会もあり、令和4年3月31日をもって解散した。令和6年4月現在、この地域で活動を続けているのは、唐椎読書会、古典を勉強する会、ことのは(君津)だけである。

13. ベルダンディ

ベルダンディは、近隣施設でベルマークを集め、周西小学校と周西南中学校に図書の寄贈を行っている。元は小学校の保護者が学校の図書環境を良くしたいと本を購入して寄贈を行っていたが、共感する仲間でこの活動を始めた。小中両校や君津中央公民館、中央図書館にベルマークの収集箱を置き、年1回まとめ、小中学校に分配した金額から希望の図書を寄贈している。



ベルマークを同じ種類でまとめるのは大変な作業だが、平成23年から令和5年までに合計187冊を寄贈した。コロナ禍では人の動きも減り収集量も減少し、その後も認知度が上がらず増加していない。

←ぜひ、ベルマーク収集にご協力を！

14. まほうのらんぶ

まほうのらんぶは、君津中央公民館の家庭教育学級から平成12年に生まれた読み聞かせグループである。現在は周西小学校や学童クラブで活動している。読書推進活動が活発な時期は、毎学期全学級で授業時間におはなし会を開催していたが、近年は年1・2回と回数は減少している。コロナ禍は中止にしていたが、感染対策を行い活動を再開した。各教室で子ども同士が離れた状態では、大型絵本でないと見えにくく、限られた範囲での選書に苦労していた。令和6年4月現在は、教室を使用し、子どもたちが寄り集まる形で実施し、以前のように選書が出来るようになった。会員個人は、視野を広げるために、多様な本やおはなしの情報を得たり、スキルアップのため、学習会などに参加したりしている。

15. 周西小グリーンクラブ

周西小グリーンクラブは、周西小学校の登校時間である午前7時から8時頃までの約1時間を目安に見守り活動を行いながら、校内美化推進活動も行っている。令和2年5月22日には、「学校警察連絡委員会委員長」「君津警察署長」「君津市教育委員会教育長」「君津市校長会会长」連名で表彰を受けた。



設立は平成29年1月1日で会員は5名であったが、令和元年4月は6名、同年11

月8名と若干の会員増になった。最近は、高齢化や体調不良などで退会される方も出ているが、学生ボランティアの受け入れも行い、令和6年現在10名で活動している。

16. 周西南中学校・周西小学校区親子の会（おやじのかい）

親子の会は、働く保護者が増えたことからPTA活動の負担を減らしたいと子ども会活動が廃止された後、子どもたちのために何かできないかと、元PTA役員が主となり形成され、平成22年から活動を開始した。学校での宿泊活動で子どもたちの体験活動を広げたり、運動会や体育祭、バザーなどで食べ物の販売を行い、その収益を図書寄贈など、学校への支援に充てたりしている。



親子の会ロゴ

コロナ禍、飲食物の販売はできず休止していたが、運動会や体育祭での冷たいおやつは子どもたちに好評で再開している。体験活動については、活動している会員も年齢を重ね体力的に難しくもあり、行っていない。令和6年度の会員は19名で、「できる人が、出来るときに、無理なく楽しく！」をモットーに活動している。仲間を増やしつつ体験活動の復活も視野に入れ、子どもたちのために活動を続けている。

コラム① 開館60周年に寄せて

周西小学校 校長 青木 利徳

君津中央公民館開館60周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。今回、開館60周年記念セレモニーに参加させていただき、君津中央公民館と地域との深い結びつきを改めて感じ、多くの団体の皆様の協力と連携によってこれまでの活動を紡いできたことを実感しました。公民館は地域の方々の社会教育や生涯学習の場として誰もが気軽に利用でき、交流を深めることができるコミュニティの場です。また、本校の子どもたちも貴重な体験や学びの機会を多く与えていただいております。ありがとうございます。

さて、教育を取り巻く環境は、急速なスピードで変化しております。このようなグローバル化やデジタル化の社会だからこそ、学校においても人と人とのつながりが大切であると感じています。未来を担う君津の子どもたちが、地域の方たちとのコミュニケーションを大切にし、直接触れ合う中で交流を深め、協働することや助け合うことの大切さを学ばせていくたいと思います。

結びに、開館60周年を迎えた君津中央公民館のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

17. 陽光台パワフル子ども会

周西小学校区では、以前、PTAの支部が子ども会活動を担っていたが、働く保護者の増加により、負担を減らすため子ども会活動を廃止した。翌年、平成16年に任意加入の子ども会として当会が発足した。子どもがやりたいことを実現する力をつけることを目的に、年間行事や行事ごとの内容は子ども会議で決め、行事の運営も子どもが行っている。

この10年は環境も大きく変化したが、話し合いにより対応してきた。お知らせを回覧で配付していたが、LINEで行うように変更した。また、子ども会議を放課後に学校の教室を借りて行い、出席率を上げた。最近、私立小学校の子が加入し、再び休日に自治会館で行っている。行事のお知らせも子どもたちが作り各家庭に配付している

が、近頃の猛暑で夏休みの外遊びがしにくいくことから年間計画づくりが課題である。

コロナ禍では、感染症対策をしながら出来る限りの行事を実施しようと、令和2年度は例年より1つ少ない4つの行事を実施した。ただ、みんなで楽しむ食事ができず黙食で行うなど寂しい経験をした。令和3年度は、6年生が多いことから初めて「君津亀山青少年自然の家」での宿泊を計画し、感染状況の悪化から2回延期しながらも実施した。また、行事の入れ替えを行い、例年より多い6行事を実施することができた。

第2節 子育て環境

1. コミュニティ・スクール（学校運営協議会）

コミュニティ・スクールは、「地域とともににある学校」を目指し、保護者や地域住民、教職員などで構成され、学校運営協議会委員が一定の権限と責任をもって学校運営に参加することで、育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標に向けて協議する機関である。君津市では令和6年度現在、2中学校区5校が導入している。

（1）周西南中学校区学校運営協議会

周西南中学校区学校運営協議会は、君津市初の試みで、平成30年度に周西小学校・周西南中学校2校で1つの「学校運営協議会」が設置された。学校運営協議会は年4回開催され「学校運営の基本方針」「学校評価」を協議の中心にしながら話し合いを重ねている。協議された内容を具体的な活動とするため、周西南中学校区地域学校協働本部も立ち上がり、相互連携を深めながら活動をしている。

（2）周西南中学校区地域学校協働本部

周西南中学校区地域学校協働本部は、学校運営協議会での話し合いを活動につなげるため、周西南中学校区地域学校協働本部を設立する動きが始まった。地域学校協働本部設立準備会は、令和2年度から検討、素案作成を行ったが、コロナ禍で集まることが難しい状況であったため、当初の予定より大幅に遅れ、令和5年5月13日に設立した。役員会で活動の方向性を検討し、「学校支援部会」「地域交流部会」「広報部会」の3つの部会に分かれて活動を進めている。

- ①学校支援部会：学校からの要望で「ミシンの使い方指導」の補助、「職業人に聞く」への講師派遣協力などの児童生徒の活動支援のほか、重機を使った樹木の伐採や撤去、除草作業などの校内環境整備を行っている。
- ②地域交流部会：保護者が交流し課題を見出す「しゃべり場」や子どもの多様な関心を広げる「地球儀づくり」や「ヘボコン」、子どもの居場所づくりの「ほっとスペース」などを実施してきた。
- ③広報部会：コミュニティ・スクール紹介用のリーフレットや活動を紹介する「コミスクだより」を制作・発行している。



コラム② 「コミュニティ・スクールの拠点として」

周西南中学校 校長 空閑 一

「昨日は何をしていたの」「(他の部活の割り当てで) 体育館が使えない日だったので、公民館で卓球をやりました」とは、ある卓球部員男子との会話です。なるほど、子どもたちにとって、君津中央公民館（生涯学習交流センター）も、1つの庭なんだな、と思った瞬間です。

周西南中学校区は、君津市で最初のコミュニティ・スクールです。周西小学校と併せて学校運営協議会を立ち上げ、地域と学校とをつなぎ、未来を担う子どもたちのために協働していこうと活動しています。中でも実働部隊としての地域学校協働本部は、「しゃべり場」や「謎解きイベント」など、様々な企画を立ち上げ、中学生や小学生たちの居場所づくり、活躍の場づくりをしてくれています。

令和元年の房総半島台風や、令和2年からのコロナ禍の影響を受け、中止に追い込まれることもありましたが、あきらめたり屈したりすることなく、何より大切な地域の子どもたちのために、脈々とつながり、続けられているこの地域活動の拠点として、君津中央公民館の存在は欠かすことのできないものです。

2. 保育園

君津市の子育て支援や待機児童の解消、多様化する保育ニーズへの対応、施設の老朽化など、保育環境の課題の解決に向け、「君津市保育環境整備に関する基本方針」が平成27年10月に策定された。これに基づき、公立保育園の民営化や統合など継続的に改善や拡充が進められ、子育て世帯を支援し、地域全体の子育て環境を改善するための重要な施策の一部として、「君津市保育環境整備計画」が令和2年9月に策定された。これにより、この地域には民間保育園の新設とともに、公立の「みふねの里保育園」が建設され、保育環境の整備が進められた。

(1) 公立保育園

①みふねの里保育園

みふねの里保育園は、約50年の歴史があった久保・上湯江・常代の各保育園が統合され、令和6年4月30日に開園した。令和6年5月現在142名の園児が集い、「保育園に通う子ども達が、自然豊かな三舟山のふもとで地域に愛着を持ち、健やかに成長してほしい」という願いを込めて、保育園の名称が決定した。乳幼児期に体験させたい感触や動きを室内、園庭、砂場で存分に発揮出来るよう環境を整えている。

②久保保育園

久保保育園は、昭和30年10月に地域住民の要望に応え「君津町立第一保育所」として開設された。社会情勢の変動や製鉄所の進出による人口急増に対応するため、保育室の増設を重ね、昭和47年に「久保保育園」に名称を変更、翌年には現在の園舎が建設され、令和6年4月29日に閉園となった。

③上湯江保育園

上湯江保育園は、昭和44年貞元小学校の教室を借り、無認可保育所として開設された。翌年4月には、現在の園舎が建設され、当初は第三保育所の名称が使われていた。令和6年4月29日に閉園となった。

コラム③ 閉園する3園の「思い出写真展」(令和6年4月6日～14日生涯学習交流センター)



“子どもだけでなく親も育ててもらった”
“温かく笑顔いっぱいの園だった”
“一緒に喜び一緒に考えてくれた”
“個性を大切にのびのび過ごさせてもらった”
と惜しまれながら久保・上湯江・常代保育園は閉園した。

(2) 民間保育園

この10年間で、この地域には4つの保育園が新設されている。

施設名	所在地区	設立年月
君津保育園	高坂	昭和24年7月
スキップ小規模保育園※1	中野	平成29年4月
ウェルネス保育園 君津	中野	令和2年4月
スクルドエンジェル保育園南久保園※1	南久保	令和2年4月
つばさ保育園	郡	令和5年4月

※1 小規模保育事業は0歳児から2歳児までを対象とした施設

3. 子育て支援センター

子育て支援センターは、子どもの健やかな成長を支援すること、子育てをしている親同士の交流を促進することで、子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感を緩和することを目的に設立されている。対象は主に乳幼児とその保護者で、気軽に遊びに行くことができ、子育てについての不安や悩みも相談することが出来る。

(1) みふねの里子育て支援センター

君津市子育て支援センター（南子安）は令和6年3月31日に閉館し、みふねの里子育て支援センターとして令和6年4月30日にみふねの里保育園に併設された。地域の子育て支援の拠点となるよう、子育て中の親子が一緒に遊び、保護者同士が子どもの話や同じ悩みを語り合い、ゆったりとした雰囲気の中で安心して過ごすことが出来る場の提供に努めている。

(2) きみつこどもセンター「はっぴー」

きみつこどもセンター「はっぴー」は、平成18年4月1日に君津保育園に併設。自然に囲まれた広々とした園庭では、園児に交じり、歌ったり踊ったり、親子でのびのびと交流している。毎月のイベントでは、絵本の読み聞かせや季節のイベント飾りの制作などがある。たくさんの出会いがあり、一緒に子育てをしようと親子に寄り添っている。また、電話相談「はっぴーテレフォン」も行っている。

(3) スキップ子育て支援センター

スキップ子育て支援センターは、令和6年4月1日にスキップ小規模保育園に併設。子育ての悩み相談や成長の確認、情報を交換したり、子どもとともに遊ぶ楽しさを実感したりすることができる施設である。スキップ子育てサロンは自由なお茶飲みサロ

ンで、妊娠前、妊娠中の人も利用出来る。毎月、親子で楽しめるイベントも開催されている。のんびり、ゆっくり、その人らしい育児を理想としている。

第3節 ふるさとの文化・自然

1. ふるさとの文化

(1) 小糸川灯籠流し



小糸川灯籠流しは、君津市中野地区で50年ほど途絶えていた小糸川の灯籠流しを平成23年、東日本大震災をきっかけに地元有志が復活させた。

大雨による増水や新型コロナウイルスの影響もあり開催を見送った年もあったが、小糸川後生橋付近の河川敷に作られた桟橋から、

800挺あまりの灯籠を各自ゆっくりと流す。灯籠には亡くなった人の供養だけでなく、住民の夢や希望も託されている。太鼓の演奏やバルーンアート、金魚すくいなども行い、子どもから高齢者までが楽しむことも出来る地域に定着した行事となっている。

(2) 郡ダム水上スキー

全日本学生水上スキー連盟が、平成27年に県や市に湖面の開放を要望したことを見たきっかけに、市としても積極的に連携を図ることとし、学生を中心としたスポーツ活動や地域の方々との交流による関係人口の創出・増加に向けた地域活性化の取組として始まった。

郡ダムの湖面を水上スキー競技に活用するため、平成28年から日本学生水上スキー連盟との実証実験として水上スキーによる湖面活用を開始し、令和2年に郡ダムで初の水上スキー大会を開催し8大学が出場した。



その後、令和5年に国内最高峰

「第69回桂宮杯 全日本水上スキー選手権大会」



の大会「第69回桂宮杯全日本水上スキー選手権大会」が開催された。この大会は、全国各地から水上スキーヤーが集結し、その年の「日本一」を決める日本水上スキー界において、最も栄誉ある大会となっている。

(3) お日待ち

中富地域は古来、海拔が低く、かつ三方を川に囲まれていたため、毎年大雨のたびに洪水で田畠は水没する状態であった。宝永元年（1707年）にときの地頭であった大草平内は河川改修に着手し、新川が完成した。

中富自治会では、平内の徳を慕い彼の木像を作つて「日の宮様」としてあがめ、山盛りのご飯を食べながら和やかに過ごす伝統



お日待ち

『貞元コミュニティセンター開館20周年記念誌』より転載

行事を「お日待ち」と称して、毎年、正月と11月に供養を続けていた。

平成15年12月には中富自治会が小糸川流路改修300年記念事業を挙行した。その後、同年12月から「お日待ち」は年1回に、さらに、令和2年3月から中富自治会総会日に供養のみ実施することになった。

(4) 貞元のどんど焼き



貞元地域のどんど焼きは、貞元地区と郡地区の2か所で行
こおりわれている。

どんど焼きとは、平安時代の宮中行事で行われていたものが庶民に伝わったとされ、その内容は、正月の松飾りや書初め・お守り・だるまなどを持ち寄り、田んぼでこれを燃やして年神様を見送り、新しい年の無病息災・家内安全を祈願するお正月の火祭り行事である。

両地域とも実行委員会を組織し実施していたが、貞元地域は昭和61年から令和2年まで中断(コロナ禍、人手不足)、郡地域は平成8年から現在まで続いている。

(5) 三舟山&郡ダム・お花見ウォーク

君津市観光協会は、貞元の景勝地である三舟山と郡ダムに広く市内外から観光客を招致したいと考え、地元自治会連絡協議会の了解と協力を得て、平成19年に第1回「三舟山&郡ダム・お花見ウォーク」を開催した。

君津駅前をスタートに、三舟山・郡ダムを経て全行程10kmのウォーキングを行った。このイベントは令和元年の第13回まで続き、常に2~3千人の参加者を得た。三舟山山頂で「貞元甲冑会」が本格的な甲冑姿でお出迎えするのも好評を博した。

コロナ禍のため、郊外イベントでありながらも60歳以上の参加者が多いことも配慮した結果、苦渋の判断であったが、令和2年の開催は中止とした。



その後、君津市観光協会としても13年間の開催実績を振り返り、当初の目的を達成できたという判断から令和2年をもって終了することとなった。

2. ふるさとの自然

(1) 三舟山とそのふもと

貞元地区には、上湯江・小香と富津市吉野地区にまたがる標高138mの丘陵、三舟山があり、ふもとの「三舟の里案内所」(駐車場)から一周1,700mを約45分で歩ける遊歩道が整備されている。

春にはツツジ、シャクナゲ、スミレが、夏はアジサイ、山百合、秋には彼岸花、キツネノカミソリ、ツリフネソウ、冬の終わりに水仙が、それぞれ可憐に、はたまた綺麗に咲き誇っている。頂上には展望台があり、ここから眺める景観は素晴らしい、近くは君津市内を一望に東京湾やアクアラインが望め、遠くは東京スカイツリーまで見渡せる。そのパノラマは「ちば眺望100景」に登録されている。

①三舟山ウォーキング

三舟山は、風光明媚で手ごろな高さと遊歩道が整備されていることから、ウォーキングで毎年4～5万人が訪れる。その中でも登頂回数にこだわる人は、1日に5～10回も登っている。「三舟の里案内所」の事務所で、チャレンジカード（登頂回数記録カード）を発行し、登頂するたびにスタンプを押す制度を行っており、100回を達成した人には記念品を贈呈している。令和6年度は158人が達成しており、年齢層は60歳から70歳が多く、80歳代の人もいる。

②梅田川支流のホタル



「三舟の里案内所」の前を梅田川の支流が流れている。この支流には夏になると、たくさんのホタルが乱舞しており、毎年5月中旬から6月中旬には、このホタルを鑑賞するために3～4千人が来場し、この界隈をにぎやかにしてくれる。この期間は「三舟の里案内所」の駐車場を開放しているため家族連れで訪れる人が多い。

③「三舟の里案内所」の朝市

「三舟の里案内所」の朝市は、平成20年に案内所が開設されて以来、16年間実施している。毎週土曜日の朝8時から、朝市が開かれ、地元小香の住民が丹精込めて作った野菜類が人気を博している。



④「三舟の里案内所」のデッキの利用



この案内所には広いデッキがあり、周囲の緑と開放的な空間が人気で、様々な人たちがこのデッキを利用している。アマチュアバンドや篠笛の会などはステージとして、またフラダンスや氣功、太極拳などは練習場として、はたまた周囲を散策した後に句会を催す者など利用は様々である。

⑤「三舟の里案内所」周辺の農地利用

この周辺の魅力はきれいな湧き水である。これを知って農業に関心のある人、農業をしてみたい人達が集まる。古代米を耕作している人、無農薬の米を作る人、まこもを耕作している人など用途は様々である。また、「JAきみつ」では、この地の水田で稻作の体験学習も実施している。



⑥三舟山撮影スポット

三舟山は人の手がかかっていない昔ながらの姿を有していることで、NHKの大河ドラマ3作(八重の桜・真田丸・せごどん)の撮影場所となつたことでも有名である。

コラム④「温かいふれあいと成長の場」

貞元小学校 校長 太田 ゆかり

台風や新型コロナウイルスなど、私達の予想を超える出来事が起こる中、「どうしたら子どもたちの心を大切にしながら学びを確保できるのか」、そしてそれを機会に「それまでの取り組みを見直す」という2つの課題に取り組んできた10年間でした。それは、対象の方々の年齢層は広がりますが、公民館の皆様も同じだったと思います。

学校でも、地域の皆様のご協力をいただきながら様々な活動を行っていますが、子どもたちが、文化祭での「超ご近所検定！」「地域の祭囃子大集合」など公民館の様々な行事や、コミュニティセンターの行事へ参加する中で、様々な年代の方との関わりを通して、自分が過ごす地域に改めて目を向ける貴重な経験の場をいただいていることに、感謝申し上げます。

「子どもたちが笑顔で過ごすことができる」という共通の目標を大切に、地域を愛する子どもたちを育てるため、今後も共に歩みを重ねていきたいと思います。

(2) 小糸川

君津市の中央に流れる小糸川は、全長82kmの千葉県で3番目に長い河川で、昭和57年に公民館区域を中心に全長5.5kmの遊歩道兼サイクリングロードが整備され、遊歩道の沿岸の緑地部分には約270本の桜が植えられた。

桜の咲くころには河川とマッチした美しい景色が広がり、堤には菜の花やアジサイなども植えられており、四季折々の花々が出迎えてくれる。大道沢公園入口から人見大橋間の5kmの区間は500m毎に標識が設置され、ジョギングなどの目安として役立っている。防災の面では、富久橋にて令和5年9月1日から河川監視カメラの運用が始まり、大雨の際にも現場に行かずそのときの川の様子を確認出来るようになった。

第4節 暮らしの様子

1. この地域の交通や産業

(1) 君津駅北口ロータリー

君津駅北口ロータリー(7,900m²)の改修工事は、君津市の玄関口であるJR君津駅北口広場における交通の円滑化及び君津駅の交通結節点機能の強化、安全・安心・快適性の向上を図ることを目的に実施された。

平成25年度から26年度にバス、タクシー、一般車の乗降場の整備や歩道のインターロッキング化などを行った。また、平成27年4月に短時間利用を目的とした有料駐車場がオープンし、最初の30分までは無料で利用出来る。

さらに平成27年度から28年度にかけて、バス、タクシー乗降場などに雨よけのシェルターが設置された。

(2) コミュニティバス

この地域のコミュニティバスには、「小糸川循環線」「人見・大和田・神門線」の2路線が有る。

小糸川循環線は、周南線、貞元線、君津市内線の廃止に伴い、平成22年5月から運行開始した。運行台数を2台から3台に増やして周南公民館からグラウンドゴルフ場、小糸公民館まで延伸、平成24年には郡方面に延伸した。

人見・大和田・神門線は当初2台（イエロードリーム・オレンジドリーム）で運行していた。市街地の交通空白地域解消のため、平成19年10月から運行開始した。富津市役所・君津駅線の運行開始などにより、平成25年1月に運行ルートの見直しを行った。

(3) 路線バス

この地域を通る路線バスは下表の6路線があり、いずれも日東交通（株）が運行している。この10年では、以下のような変化があった。

周西線は、清和地域拠点複合施設「おらがわ」の開設後、令和5年9月から「清和公民館」まで延伸された。

令和6年4月のバス運転者における改善基準告示の変更（長時間労働・過重労働の実態にある自動車運転者の健康確保などによる）に伴い、4路線^{※1}において、一部路線の減便や運行時刻の変更を行うことで、継続的な路線バスの運行体制を維持していくために4月1日からダイヤ改正が行われた。

富津市役所・君津駅線では令和7年1月4日に「イオンタウン君津前」バス停が新設された。

路線名		主な運行経路
周西線 ^{※1}		中央門前～君津駅南口～君津バスターミナル～中島～清和公民館
畠沢線 ^{※1}		木更津駅西口～君津中央病院～陽光台～君津駅南口
君津市内 循環線 ^{※1}	A廻り	君津駅～陽光台～畠沢～君津製鉄所～中央門前～大和田～君津駅～八重原
	B廻り	八重原～君津駅～大和田～中央門前～君津製鉄所～畠沢～陽光台～君津駅
富津市役所・君津駅線		大貫駅東口～富津市役所～青堀駅～イオンタウン君津前～アピタ前～君津駅南口
イオンモール木更津線 ^{※1}		君津駅南口～君津市役所～イオンモール木更津～木更津駅西口
イオンモール富津線		君津駅北口～君津台～大和田～青堀駅～イオンモール富津

(4) 高速バス

君津市への高速バス乗り入れは、主に①君津～東京線、②館山・君津～羽田空港・横浜線、③君津～新宿線、④新宿なのはな号の4つの路線である。

コロナ禍の影響により高速バスの便も大幅に減少した。その中でも、君津～新宿線は、平成29年に運行開始したが、令和2年は約20%に減少し、令和2年4月13日以降全便運休となった。新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、利用人数が元に戻りつつある。

新宿なのはな号は、館山～新宿間の運行を行っていたが、令和3年7月22日より、君津バスターミナルへの乗り入れを開始し利用者も増えている。

令和5年度第2回君津市地域公共交通会議（令和5年8月29日開催）において、公共交通利用者数の中で高速バス利用者数は、目標値には達しなかったものの、令和4年と比べ約12.7万人増加し、コロナ禍に減少していた利用者は復調傾向にあると評価している。

(5) 地域の新しい商業施設「イオンタウン君津」

君津市中野の旧ダイエー君津店跡地に平成 30 年 3 月「イオンスタイル君津」を核店舗とする総店舗 21 店の「イオンタウン君津」が開業した。「イオンスタイル君津」は、食品、日用品を充実させるとともに、薬は一般医薬品の販売から処方せんの受付まで対応する。タウン内には、クリーニング、コインランドリー、ATM など買い物と一緒に利用出来るサービス専門店が有る。その他、カラオケ、ヨガ教室、フィットネスクラブ、音楽教室など、趣味や余暇を充実させる専門店や、訪問歯科診療や充実した口腔ケアを行う歯科医院、リハビリを強化した要支援・要介護者対象のデイサービスも開業している。基本商圈は、車で 15 分圏内の約 25,200 世帯、人口約 54,800 人を想定している。

(6) 地域の新しい産業施設「君津とまとガーデン」

平成 31 年 4 月、日本デルモンテアグリ株式会社と君津市のカズサの愛彩グループが出資し、上湯江地区に、オランダ式太陽光利用型温室で高度な環境制御を行い、高



品質なトマトの安定生産を行う施設として誕生した。製品は「デルモンテ」ブランドのトマトとして百貨店や量販店などで販売されている。環境への配慮として雨水を利用した栽培、排給液のリサイクル利用、トマト栽培で発生する植物残渣の堆肥への利用などを行っている。近年の猛暑により、夏場の収穫を避け、年間 10 か月の収穫とし、さらに消費者の嗜好の変化もあり栽培品種も変更されている。

2. 移り住んだ人々

(1) 他市から移り住んだ人々

君津中央公民館の対象地域には、この 10 年間で貞元地区、上湯江地区に小規模の住宅地が開発され、以前から大規模開発されていた住宅地にも家が増えている。その中から貞元、上湯江、中富北、郡の杜、陽光台を選び、この地区に転居してきた人を無作為に 10 名選び、君津中央公民館についてインタビューを実施した。

その構成は、君津市に縁故が無い転居 1 名、仕事が袖ヶ浦市で知人紹介による転居 1 名、富津市出身で東京から君津市に転居 2 名、市内からの転居 6 名である。

10 名の世代構成は、子育て世代 6 名、子育て終了現役世代 4 名。子育て世代中 4 名は君津中央公民館の「こっこるーむ」を利用または利用経験が有った。郡の杜に転居して来た子育て世代の内 2 名は君津中央公民館が遠いため「こっこるーむ」を利用していないとのことであった。君津市を選んだ理由として、適度に店が有り、気候も温暖で住みやすいという意見が多かった。

子育て終了現役世代 4 名中 1 名は、「昔は公民館を利用した経験が有るが、現在は全員が公民館を利用していない」という回答であった。子育て世代の人が「こっこるーむ」を知ったきっかけは、「ネットで調べた」という人が 1 名で、その他の人は「ママ友の情報網」であった。「こっこるーむには幼稚園のママ友と一緒にくる場合もあるが、ここに来れば同年代の子育て世代の人が居て友達になれるし、誰かが居るので、子どもたちが一緒に遊べる」という回答が多かった。公民館以外で利用している施設として「みふねの里子育て支援センター」を挙げた人がいた。また、住んでいる場所



によって、近くに公園があって助かるという意見と、無くて困るという意見の地域差が出た。当公民館までの移動手段は10名全員が自動車であった。

(2) 海外から移住された人々

君津市に住む外国人は、令和6年8月末現在で1,365人おり、その数は緩やかに上昇している。在留資格では永住者が3割を占めている。国籍別では、1位フィリピン、2位中国、3位ベトナム、4位韓国、5位ブラジルとなっており、全国の傾向に沿っている。君津中央公民館の対象地域における外国人は、令和6年8月末現在で372人となっている。

令和4年3月に君津市が発行した君津市外国人市民アンケート調査報告書(18歳以上255件回答)に有る君津市における外国人の暮らしの状況によると、居住地域は君津地区が74.5%で最も多いことがわかる。

また、久保に有る君津市国際交流協会(KIES)で“様々な国の人たちと異文化コミュニケーションを楽しみましょう”と題して、世界のお茶を楽しみながら、KIES会員と市民の交流を深める「国際交流フェスタinきみつ」を生涯学習交流センターで実施している。書道、着付けの体験、生バンド演奏、高校生のダンスパフォーマンスなど多彩な催し物が行なわれている。この交流は、コロナ禍の令和3年から4年までは実施していなかったが、令和5年から再開している。